

刊行のことば

日本文化の生み出した独特な色彩美、それは世界に類を見ない繊細な美意識に支えられた優雅と幽玄の世界である。私たちはその伝統美を無意識のうちに享受して生きている。しかし私たちは、王朝文学の傑作『源氏物語』の中で描かれた多くの美しい服飾の色を正確に思い浮かべられるのだろうか。あるいは、江戸期に流行した「利休鼠」はどんな色かと問われて、返答に窮しないだろうか。私たちは、身近な日本の色を知っているようで意外に知らないのである。

日本文化の研究は、近年さまざまな分野で成果を見ているが、こと「色彩」に関しては、残念ながら十分になされているとはいえず、日本の色を正確に復元した標準的、体系的な資料を持っていないのが実情である。なによりもまず正確な日本の色の見本帖を持ちたい、その願いに応じて企図したのが本書である。

ここでは、日本色彩美の二大潮流である古代王朝と江戸の色を中心に天然染料による染色技術によって再現し、美意識の変遷をたどるとともに、日本独自の色を歴史的に集大成した。

歴史的文献に基づき、正確な色を実際に染め上げるこの作業は、すべて手作業による困難を極める工程であった。しかし約六年の歳月をかけ、わが国初めての天然染料で染めた絹布による基本的色彩見本資料をここに完成させることができた。日本の色彩研究の一里塚となれば幸いである。

河出書房新社

日本色彩大鑑を推薦する

東京芸術大学教授 大岡 信

日本列島に住む人々は、地理上の位置、また気象上の諸条件によって、古代から植物染料と特に親しい関係にあった。多彩な植物染料が豊かな生活感覚を育てた。色名も個々の草木や花の名をそのまま用いることが多かった。それは色が生活と密着していたことを示している。

植物染料の妙味の一つは同じ材料からとった色彩でも、組合せで驚くほど多様になり、心を奪う深みをも出せるところにあった。「染(し)む」は「沁(し)む」「浸(し)む」「滲(し)む」だった。色を染めることが、心を染め、また心が沁みることに通じていた。イロは自然界にあると同時に、心にある世界だった。

『日本色彩大鑑』はそれがいかに本質的な文化の表現であるかを、歴大な染料美の集大成によって見せてくれる。大変な労作である。

美術評論家 河北倫明

松本宗久さんは、ユニークで熱心な日本の色彩の研究者です。氏は各時代の美意識と歴史のこまやかな考察を通じて、『草根花木皮染』『王朝盛飾』等独特の成果を展開してきました。その仕事には、長い体験に裏打ちされた比類のない密度があり、色彩に関心のある多くの人々に貴重な示唆を与えるにちがいありません。このたび、松本宗久さんのライフワークともいえるべき労作が刊行の運びとなったことは御同慶にたえないところです。この異色の力作が広く人々の目に触れ、日本文化研究の貴重な栄養となることを願ってやみません。

## 第一巻

### 古代の色

#### 五方正色、五方間色

日本色彩の主要材料と色

冠位十二階の制 推古天皇 飛鳥時代

孝徳天皇朝服の制 飛鳥時代

天武天皇朝服の制 飛鳥時代

持統天皇朝服の制 飛鳥時代

律令衣服令 奈良時代

養老衣服令 凡服色 奈良時代

正倉院宝物に現れた色 飛鳥時代から奈良時代

延喜式縫殿寮「雑染用度」 平安時代

## 第二巻

### 平安時代の色 重色目 四季

#### 【春】

梅（うめ） 梅重（うめがさね） 白梅（しらうめ） 一重梅（ひとえうめ） 裏梅（うらうめ） 紅梅匂（こうばいにおい） 紅梅（こうばい） 蒼紅梅（つぼみこうばい） 裏倍紅梅（うらまさりこうばい） 蒼梅（つぼみうめ） 雪下紅梅（ゆきのしたこうばい） 若草（わかくさ） 柳（やなぎ） 柳重（やなぎがさね） 黄柳（きやなぎ） 花柳（はなやなぎ） 青柳（あおやなぎ） 面柳（おもやなぎ） 薄柳（うすやなぎ） 裏柳（うらやなぎ） 桜（さくら） 白桜（しろざくら） 紅桜（くれないざくら） 樺桜（かばざくら）

萬津桜（まつざくら） 葉桜（はざくら） 薄桜萌黄（うすぎくらもえぎ） 桜萌黄（さくらもえぎ） 桜重（さくらがさね） 花桜（はなざくら） 薄桜（うずざくら） 薄花桜（うすはなざくら） 花葉色（はなはいろ） 壺堇（つぼすみれ） 堇（すみれ） 白桃（はくとう） 桃（もも） 早蕨（さわらび） 躑躅（つつじ） 紅躑躅（くれないつつじ） 餅躑躅（もちつつじ） 白躑躅（しろつつじ） 岩躑躅（いわつつじ） 山吹（やまぶき） 花山吹（はなやまぶき） 山吹重（やまぶきがさね） 青山吹（あおやまぶき） 裏山吹（うらやまぶき） 藤（ふじ） 白藤（しらふじ） 藤重（ふじがさね） 土筆（つくし） 牡丹（ぼたん）

### 【夏】

卯花（うのはな） 棟（あうち） 楓（かえで） 若楓（わかかえで） 葵（あおい） 薔薇（そうび） 杜若（かきつばた） 若苗（わかなえ） 苗色（なえいろ） 蓬（よもぎ） 菖蒲（しょうぶ） 菖蒲重（しょうぶがさね） 根菖蒲（ねあやめ） 若菖蒲（わかしょうぶ） 花菖蒲（はなしょうぶ） 破菖蒲（はしょうぶ） 花橘（はなたちばな） 橘（たちばな） 百合（ゆり） 撫子（なでしこ） 花撫子（はななでしこ） 白撫子（しろなでしこ） 唐撫子（からなでしこ） 撫子若葉色（なでしこわかばいろ） 蟬羽（せみは） 夏萩（なつはぎ）

### 【秋】

桔梗（ききょう） 萩（はぎ） 萩経青（はぎたてあお） 萩重（はぎがさね） 梶（かじ） 紫苑（しおん） 女郎花（おみなえし） 藤袴（ふじばかま） 月草（つきくさ） 尾花（おばな） 龍膽（りんどう） 朝顔（あさがお） 花薄（はなすすき） 忍算（しのぶぐさ） 朽葉（くちば） 黄朽葉（きくちば） 青朽葉（あおくちば） 櫛（はじ） 櫛紅葉（はじもみじ） 紅葉（もみじ） 紅葉重（もみじがさね） 楓紅葉（かえでもみじ） 赤朽葉（あかくちば） 黄紅葉（きもみじ） 紅紅葉（くれないもみじ） もじり紅葉（もじりもみじ） 初紅葉（はつもみじ） 檀（まゆみ） 萩（おぎ） 菊（きく） 菊重（きくがさね） 花菊（はなぎく） 白菊（しらぎく） 黄菊（きぎく） 荅菊（つぼみぎく） 紅菊（くれないぎく） 移菊（うつろいぎく） 蘇芳菊（すおうぎく） 九月菊（くがつぎく） 葉菊（はぎく） 残菊（のこりぎく） 虫襖（むしあお） 柑子色（こうじいろ） 落栗色（おちくりいろ） 小栗色（こぐりいろ）

### 【冬】

枯野（かれの） 枯色（かれいろ） 初雪（はつゆき） 雪の下（ゆきのした） 氷重（こおりがさね） 松の雪（まつのゆき） 氷（こおり） 椿（つばき）

### 第三卷

平安時代の色 重色目 四季通用

松重（まつがさね） 秘色（ひそく） 裏濃蘇芳（うらこきすおう）

脂燭色（しそくいろ） 蘇芳の香（すおうのか） 火色（ひいろ）

葡萄（えび） 玉虫色（たまむしいろ） 裏濃萌黄（うらこきもえぎ）

練色（ねりいろ） 青黒（あおぐろ） 苔色（こけいろ）

濃桑色（こぐわいろ） 赤色（あかいろ） 水色（みずいろ）

二藍（ふたあい） 梔子色（くちなしいろ） 篠青（ささのあお）

青丹（あおに） 縹（はなだ） 辛螺色（にしいろ）

今様色（いまよういろ） 浅黄（あさぎ） 木賊（とくさ）

黄木賊（きとくさ） 黒木賊（くろとくさ） 青木賊（あおとくさ）

麴塵（きくじん） 濃香（こきこう） 苦色（にがいろ）

蘇芳（すおう） 掻く練（かいねり） 醬色（ひしおいろ）

檜皮（ひわだ） 濃色（こきいろ） 香（こう）

薄香（うすこう） 黄青裏（きあおうら） 海松色（みるいろ）

鳥の子重（とりのこがさね） 青唐紙（あおからかみ） 唐紙（からかみ）

緑杉（ろくさん） 薄色（うすいろ） 瑠璃（るり）

薄青（うすあお） 半色（はしたいろ） 若緑（わかみどり）

萌黄（もえぎ） 二つ色（ふたついろ） 円縹（まるはなだ）

葛（くず） 胡桃色（くるみいろ） 比金襖（ひこんあお）

木蘭地（もくらんぢ） 萱草色（かんぞういろ） 紅薄様（くれないのうすよう）

濃蘇芳（こきすおう） 青鈍（あおにび） 白襲（しろがきね）

#### 第四卷

平安時代の色 襲色目 古代から中世の色概観

襲色目『栄花物語・若ばえの巻より』

##### 【薄様】

紅の薄様（くれないのうすよう） 紫の薄様（むらさきのうすよう）

##### 【匂】

蘇芳の匂（すおうのにおい） 萌黄の匂（もえぎのにおい） 紅梅の匂（こうばいのにおい） 紅の匂（くれないのにおい） 紫の匂（むらさきのにおい） 山吹の匂（やまぶきのにおい）

##### 【四季】

松重（まつがさね） 柳（やなぎ） 薄萌黄（うすもえぎ） 裏濃蘇芳（うらこきすおう）

##### 【五節より春】

梅重（うめがさね） 雪の下（ゆきのした） 梅染（うめぞめ） 花山吹（はなやまぶき） 裏山吹（うらやまぶき） 裏倍紅梅（うらまさりこうばい） 色々（いろいろ） 紫村濃（むらさきむらご） 二つ色（ふたついろ）

##### 【四月より】

菖蒲（しょうぶ） 若菖蒲（わかしょうぶ） 躑躅（つつじ） 藤（ふじ） 卯の花（うのはな） 花橘（はなたちばな） 撫子（なでしこ） 白撫子（しろなでしこ） 若楓（わかかえで） 牡丹（ぼたん） 杜若（かきつばた） 餅躑躅（もちつつじ） 女郎花（おみなえ） 龍胆（りんどう） 薄（すすき）

##### 【十月より】

黄菊（きぎく） 白菊（しらぎく） 櫛紅葉（はじもみじ） 紅紅葉（くれないもみじ）  
楓紅葉（かえでもみじ） 青紅葉（あおもみじ） 振り紅葉（もどりもみじ）

#### 古代から中世の色概観

瑠璃色（るりいろ） 桃色（ももいろ） 空色（そらいろ） 紅（くれない） 桜色（さくらいろ）  
浅葱色（あさぎいろ） 撫子（なでしこ）

山吹（やまぶき） 朽葉（くちば） 萱草色（かんぞういろ） 柑子色（こうじいろ） 裏  
倍紅梅（うらまさりこうばい） 百合（ゆり）

海松色（二種）（みるいろ） 二藍（ふたあい） 苔色（こけいろ） 蓬（よもぎ） 穴色（し  
しいろ） 半色（はしたいろ）

丁字（ちょうじ） 夏虫色（なつむしいろ） 青磁色（せいじいろ） 柳色（やなぎいろ）  
白椽（しろつるばみ） 杜若（かきつばた） 苗色（なえいろ）

緑青（ろくしょう） 椴椰子（二種）（びんろうじ） 黄土色（おうどいろ） 董色（すみ  
れいろ） 一斤染（いつこんぞめ） かち色（かちいろ）

青朽葉（三種）（あおくちば） 薄紅（うすくれない） 蘇芳（すおう） 濃蘇芳（こきす  
おう） 薄蘇芳（うすすおう）

赤朽葉（あかくちば） 櫛（はじ） 櫛紅葉（はじもみじ） 月草色（つきくさいろ） 青  
鈍（あおにび） 薄鈍（うすにび） 鈍色（にびいろ）

葡萄（えび） 檀（まゆみ） 虫襖（むしあお） 落栗色（おちくりいろ） 松葉色（ま  
つばいろ） 白緑（びやくろく） 木賊色（とくさいろ）

紅葉（もみじ） 牡丹（ぼたん） 紫苑（しおん） 水色（みずいろ） 桔梗（ききょう）  
灰汁色（はいじるいろ） 黒椽（くろつるばみ）

紅梅色（こうばいいろ） 縹（はなだ） 薄青（うすあお） 青丹（あおに） 鶺鴒色（ひ  
わいろ） 朱色（しゆいろ） 苦色（にがいろ）

#### 第五卷

江戸の色

璃寛茶（りかんちや） 岩井茶（いわいちや） 芝翫茶（しかんちや） 梅幸茶（ばいこうちや） 舛花色（ますはないろ） 路考茶（ろこうちや）

樺茶(三種)（かばちや） 黄樺（きかば）

樺茶(二種)（かばちや） 藤煤竹（ふじすすたけ） 藤色煤竹（ふじいろすすたけ）

紫（むらさき） 偽紫(二種)（にせむらさき）

藍鼠(二種)（あいねずみ） 紺天鷲絨（こんびろうど） 天鷲絨（びろうど）

御召御納戸（おめしおなんど） 藍御納戸（あいおなんど） 江戸茶(二種)（えどちや）

丁字煤竹（ちょうじすすたけ） 丁字茶（ちょうじちや） 丁字まがひ（ちょうじまがい）

紅鬱金のまがひ（べにうこんのまがい） 紅鬱金仕様の事（べにうこんしようのこと） 礪茶(とのちや)

紅朽葉色（べにくちばいろ） まがひ紅（まがいべに） 紅緋（こおひ）

御納戸茶（おなんどちや） 金煤竹（きんすすたけ） 金茶(二種)（きんちや）

木賊色（とくさいろ） 木賊（とくさ） 鳶色(二種)（とびいろ）

柳茶（やなぎちや） 柳煤竹茶（やなぎすすだけちや） 柳煤竹（やなぎすすたけ）

紅鳶(三種)（べにとび）

鳶煤竹(二種)（うぐいすすたけ） 鳶茶（うぐいすちや）

唐茶(三種)（からちや）

黄唐茶(二種)（きがらちや） 本相藤（ほんそうふじ） 紅藤（べにふじ）

檜皮(二種) (ひわだ) 檜皮色 (ひわだいろ)

本煤竹 (ほんすすたけ) 煤竹色 (すすたけいろ) 煤竹 (すすだけ)

紫鳶(三種) (むらさらとび)

千歳茶染 (せんざいちやそめ)

千歳茶 (せんざいちや) 仙斎茶(二種) (せんざいちや)

利休鼠 (りきゆうねずみ) 鳩羽鼠 (はとばねずみ) 銀鼠 (ぎんねずみ)

御召鉄 (おめしてつ) 鑄鉄御納戸 (きびてつおなんど) 鉄御納戸 (てつおなんど)

媚茶 (こびちや) 媚茶染 (こびちやぞめ) 藤色 (ふじいろ) 藤紫 (ふじむらさき)

青茶染 (あおちやぞめ) 青茶(二種)あおちや 黒鳶 (くろとび)

白茶(三種) (しらちや) 椀椰子染 (二種) (びんろうじぞめ)

藍紫 (あいむらさき) 偽桔梗 (にせききよう) 桔梗 (ききよう)

濃茶染 (こいちやぞめ) 茶重代 (ちやじゆうだい) 焦茶(二種) (こげちや)

憲法染 (二種) (けんぼうそめ) 憲法 (けんぼう)

藍海松茶 (あいみるちや) 海松茶 (みるちや) 酢海松茶 (すみるちや) 黄海松茶 (きみるちや)

柿渋色 (かきしぶいろ) 薄柿 (うすがき) 照柿 (てりがき) 紅柿 (べにがき) 洗柿 (あらいがき) 洒落柿 (しやれがき)

葡萄鼠 (二種) (ぶどうねずみ) 相伝唐茶 (そうでんからちや)

相伝茶 (そうでんちや) 相伝茶 (青み) (そうでんちや) 相伝茶 (赤み) (そうでんちや) 相伝茶 (黄み) (そうでんちや) 相伝茶 (黒み) (そうでんちや)

鶺鴒色（ひわいろ） 鶺鴒茶（ひわちや） 藍媚茶(二種)（あいこびちや）

煎茶染（せんじちやぞめ） 薄茶（うすちや） 当世茶（とうせいちや） 当世茶の事（とうせいちやのこと）

猩々緋（しょうじょうひ） 菖蒲（しょうぶ） 緑茶（りよくちや） 素鼠（すねずみ）  
紺鳶（こんとび）

浮草鼠（うきくさねずみ） 雀茶（すずめちや） 根岸色（ねぎしいろ） 藤鳩羽（ふじはとば）  
裏柳（うらやなぎ） 小豆色（あずきいろ） 菜花色々（なのはないろ）

玉子煤竹（たまごすすたけ） 紅樺茶（べにかばちや） 桜鼠（さくらねずみ） 砂色（すないろ）  
肥後煤竹（ひごすすだけ） 珊瑚珠色（さんごしゆいろ） 梅紫（うめむらさき）

利休白茶（りきゆうしらちや） 錆青磁（きびせいじ） 洗朱（あらいしゆ） 琥珀色（こはくいろ）  
枇杷茶（びわちや） 海老茶（えびちや） 生壁色（なまかべいろ）

深川鼠（ふかがわねずみ） 梅鼠（うめねずみ） 山吹茶（やまぶきちや） 百入茶（ももしおちや）  
桔梗花色（ききようはないろ） 鶺鴒色（ときいろ） 遠州茶（えんしゆうちや）

山吹色（やまぶきいろ） 若竹色（わかたけいろ） 青竹色（あおたけいろ） 老竹色（おいたけいろ）  
栗皮茶（くりかわちや） 菜種油色（なたねゆいろ） 利休茶（りきゆうちや）

梅（うめ） 赤梅（あかうめ） 黒梅（くろうめ）

蒲色（かばいろ） 紺桔梗（こんききよう） 土器色（かわらけいろ） 紅柄色（べんがらいろ）  
栗煤竹（くりすすだけ） 代赭色（たいしやいろ） 曙色（あけぼのいろ）

紅檜皮（べにひわだ） 牡丹鼠（ぼたんねずみ） 千歳緑（せんざいみどり） 海松色（みるいろ）  
茶色（ちやいろ） 錆浅黄（さびあさぎ） 朽葉茶（くちばちや）

瓶覗（かめのぞき） 紺（こん） 上紺（じようこん） 下紺（げこん） 昆布茶（こん

ぶちや) 生壁鼠 (なまかべねずみ) 老緑 (おいみどり)

黒(二種) (くろ) 紺(本綿布染) (こん)

藍 (あい)

藍の茎葉を刻んで乾燥、堆積し、これに水をかけて発酵させたもの(菜)から、藍汁を作る。

鬱金 (うこん)

インドカレーに入っている香辛料でもある鬱金の根で、媒染なしで明度の高い黄を得る。

橡 (つるばみ)

トングリの実で染める茶色だが、鉄塩媒染によると黒染めとなり、古代の奴婢の色となる。

紫 (むらさき)

紫草の根に灰汁(あく)を媒染に染める。濃いものを上質とし、染め上げに一カ月かかった。

紅 (べに)

末摘花(すえつむはな)ともいわれ、黄色い花を摘んで水をかけ発酵させると紅色になる。